令和6年度第3回男女共同参画推進懇話会　議事録

令和7年3月5日（水）13:30～15:00
宗像市役所303会議室

【参加者】
出席者：石橋委員、石山会長、魚住委員、久保委員、小森委員、戸畑委員、藤谷委員、水田委員
欠席者：山田副会長
事務局：八木市民協働部長、吉武主幹、萩野

1　はじめのあいさつ
宗像市男女共同参画推進懇話会　会長　石山さゆり

2　議事録署名人選出
議事録署名人　：　小森委員

○委員
●事務局

3　議事
(1)　令和5年度実施状況報告に対する意見書について
●第2回会議での評価とコメントを事務局でまとめ、基本目標毎に委員評価コメントという形で記載している。修正した方が良い点について協議をお願いしたい。
○P11の「36　教育現場における性教育等の推進・充実」については、1から2行目はそのままにして、「教育現場における性教育については」のところに、「さらに」や「専門知識と共に、・・・」と一言入れる。
○実施状況及び評価については、若干修正が出ているので、その分については、石山会長と事務局で相談して確定し、その資料に会長による総括を付けて、意見書として市に提出するという形にする。

(2)　第4次宗像市男女共同参画プランの作成について
●プランの骨子について、今回の会議で事務局案を示す予定であったが、現プランでは、評価の方法や評価基準がわかりにくい等の課題があり、目標設定の仕方等、もう少しプランの作成時点で見直すべきところがあるのではないかと考えている。今回改めて意見をいただいた上で、プランの具体的な作成を進めていきたい。配付資料の一覧になっている表の中の市は、昨年度、一昨年度に、男女共同参画の計画を開始している福岡県内の市であり、各市が作成した体系図、ダイジェスト版、数値目標のページを抜き出して配付している。これらを参考にしながら、現プランの評価をする上での課題等を出してほしい。
●数値目標がない市もあるが、北九州市では、数値目標の他に経年で見ていく指標とそれに対するコメントを付したモニタリング指標が記載されている。
●現プランの評価では、委員の間でも「どれくらい伸びていたら良いのか」「何%伸びていたら良いのか」といったことがはっきりしておらず、とても分かりづらく評価しにくいというようことであったので、どういうところが評価しづらいのかという話をお聞きし、それが新しいプランに反映できるようにしていきたい。
●数値で測るのはわかりやすさの点では良いが、「数値ではかりきれない」「切り捨てるわけにもいかない」というのが現状であり、委員の方が評価するに当たって、「今までどういうところが評価しづらかったのか」や「もうちょっとこのように改めたらやりやすい」等の意見を参考にしながら数値目標や定性評価の目標等を事務局案として提示していくようにしたい。
○北九州市の資料は、柱ごとに1ページにまとめてあり、評価のコメントは、その中に書いてある。見方としては、3つの視点のうち数値で見るものが1番の所、2番の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」ということについては、経年で見て「こうなってきている」というコメントが書いてある。数値とコメントで載せていくという評価の方法なのだと思う。
●今宗像市が行っている評価は、「何%を目指して、それを達成するように」という形になっていて、5年計画なので、1年では、その5分の1が達成できていると良い。という話にもなり、それは、ちょっと違う訳

で、委員の方もしっくりきていないのが現状だと思っている。何か別な評価方法を探していかないといけないのではないか。

○北九州の資料は、わかりやすい。「どの時点でクロスしているか」という流れが良くわかる。しかし、浸透しているかどうかっていうことは、ケースバイケースで人によるわけで、いろんな仕事をしている人がいる中で、個々人の置かれている状況によって違い、同じ人でも3年後、5年後は違う回答になる。人生の色々な局面で回答が変わってくるので、どのようにしたら良いかが難しい。こういうジェンダーが浸透しているかどうかといったような大きな概念的な目標は、一番設定が難しいと思う。だから、DVや児童虐待、女性の登用率といったパーセントを捉えながら見ていけるものは、数値目標を立てたり、達成度で見たりしていけば良い。その中でも、「ある一定期間続けて見ていく」という視点は必要である。人の捉え方で変わってくるものについては、低くしてしまう要素を先に削減できるようなことをすれば、底上げできることになるので、他の目標と連動させながらしていくと良い。

○評価で出てくる数字は、担当した課の人が「課として頑張りました」という成果だと思う。でも、10万人の市民に対して10人の参加が果たしてAなのかと言われたら、感覚的には「全然だ」ということになるが、「課としての取組は、評価できる」という意味で評価をしてきた。この評価自体が宗像市の行政の男女参画の取組の進捗を評価するものだと思っているので、A評価にしてきたが、市民からすると「えっ」となっている部分もあると思う。これがギャップだと思うので、その数値目標を置くことが良いとか悪いとかということもあるが、何を評価の指標にしているのかを一致させておかないと、感覚でやっていたら、いつまでたってもAのままになる。例えば先ほど言われたように、することが前提でこのプランが進んでいるのであれば、やれてないことを挙げて消去していくという方が見えると思う。やれてなかったことがやれるようになったらという消去法で行うのも1案である。長年やってきて、曖昧さが難しかった。

○絶対評価か相対評価かということだと思う。宗像市としてはこれまで絶対評価で進めているが、相対評価など他と比べてとしていくと市民側の視点が入ってくる。

○実践されている各地区コミュニティの役職の人たちにも評価をもらうべきでは。各課の評価のコメントは見ているけど、どのような形で行われていたかを知らない中で、委員がジャッジしていることには違和感がある。負担にはなるが、実践の現場にいる人たちがこの指標に対してどういう感覚を持っているかを合わせたジャッジが1度ぐらいあっても悪くはないと思う。自分自身が福岡市の男女共同で、校区の中でやっていた時は、やっぱりそういう違和感があった。役所が言ってくる話と、現場で起きている話のミスマッチみたいなところ。女性が役員になったらいいと役所の人は言うけど、周りのお母さん達はそれどころじゃないと言っているのに。1回ぐらいは聞いてもいいと思っている。

○自分も「何で10人しかできてないのにAなのか」と思っていた。確かに事業をやっている行政の立場の方たちは、今年の目標はこれでやっていくと言って、その事業を展開したら、もうそれはやりましたという報告になっていた。確かに市民側から見たら「それでいいの」という思いがあり、私も何回か意見として言ったことがある。押しなべて全体を一斉にやるというのは大変なのではないかと思います。全て男女共同参画に向かって仕事をしている訳でもないので、その中で、「この年は、特にここに焦点を当ててやろう」といった方向性を課題として、優先課題は何なのかということを考えて、毎年行っていってもいいのかなと思う。

●宗像市では、これまでこれだけやりますっていう目標を立てているので、事業をやって、ある程度想定していた人が集まって話を聞いてくれると「やった」と思ってしまっている。それがジェンダーギャップ解消や女性活躍推進にどれだけ貢献できているかというと、とてもとてもといった状況になる。その意識はありつつも、できるところからやっていくしかないのが現状。このことから考えると問題意識を市民と共有しながら、プランを進めていくという方法が良いかと思う。

○計画を推進し、全部やったとしても、目標が達成できたかどうかは違う。全部やれば100%でA評価になるが、実際の目標が達成できたかと言えば、必ずしもそうではないというのが現状だ。評価を詳しくした時に、評価のための評価になってしまうと、何かこう首を絞めるような形になりそうなので、そこをどうしたらいいのかを考えたい。

○もし優先順位をつけられるのであれば、先ほど話が出たように、どこに向けてやっていくかという最終地点を市民に置くことができれば、優先順位の高いところから掘り下げて、他にしないといけないことがあ

っても、それを中心に考えて解決していくようにすれば良いと思う。他がちょっと遅れるというようになったとしても、そこに集中してマンパワーを集め、情報収集、解析、解釈を集中させることができるのであれば、何か他も連動していくと思う。市民にとっても実質的な解決に向けて「市がここまでやってくれている」「市がここまでフォローしてくれている」と思ってもらえれば市民も何か協力してくれるところは、できたらいいと思う。理想ではあるが。

○プランの目標は、基本的に1から5で変わらないということか。

●北九州市の資料で1枚めくった1ページに、計画の位置づけというのがある。国の男女共同参画社会基本法と女性の職業生活における活躍の推進に関する法律、配偶者からの暴力の防止、被害者の保護等に関する法律、今年度から施行されている困難な問題を抱える女性の支援に関する法律、これだけの法律の中身を計画の中に取り込んだ上で、宗像市の男女共同参画条例や宗像市総合計画に、紐づけされた計画になるようにしていきたい。大きな基本目標としては、どこの市を見てもあまり大きな違いはなく、今でいうと女性活躍にワークライフバランスがくっついていくようなかたち。困難女性のところは、もう少しDVの支援であったり、女性が経済的に困窮していたりということも、もう少し事業として広げていかなければならないと考えているが、大筋では、そんなに変えることはないと考えている。国も県も計画のスタートは、宗像市と同じ時期になるため、そちらの進捗等も見ながら進めていくことになる。基本的な柱立ては大きくは変わらない。

○全課を挙げて取り組んでいくというところも変わらないか。

●十分できていないところはあるが、男女共同参画の問題は社会全体の問題であり、全庁に横串を刺すといった感じで、全課を挙げて一緒に進めていかないといけない事業ものだと考えている。

○目標と具体的な事業、評価は連動しているので、評価だけを考えるとなると難しい。評価をどうするかというより前に目標、具体策が決まってこないと。

●目標から具体的事業につながって、数多くの事業が紐づいているような状況になっている。宗像市の計画は男女共同参画推進センターの講座がとても多くあり、どうしても「講座を何回やって何人参加があった」というのが実績として出てしまう。そのことについては毎回指摘を受けている。募集に対して応募はかなり高く、最終的には8割程度は人を集めている。中には抽選になって満足度も高いので、センターの事業としてはまずまずやれているのではないかとは思う。しかし「10人20人集まったからと言って、市民の意識がどう変わるのですか」と言われると難しい。「目的に対してどう達成できているか」「目的に対して、事業の成果としてどうなのか」ということを報告していくよう見直していきたいと考えている。

○意識も考えないといけないし質も考えないといけないので難しい。10年前とは全然違う。意識は見えない。例えば子供を病院に連れて行く時に、これまではお母さんだったのが今はお父さんが多いなど、社会の仕組みがどんどん変わってきているのかなというのは感覚ではある。それを形にするということになると難しい。先ほどの話を聞いて、できていないことを潰していくのも一つの方法だなと思う。トイレ一つ考えても、昔は便所と言っていたのが今はトイレと言うように、同じ場所だが言い方で変わる。人間の感覚は時代で変わる。その意識をどうやって評価するかというのは難しい。市がしていることを評価するのではなく、市民側から見る評価をというと、参加者の人数ではないわけで、アンケートの結果等になるのか。しかし、来ることができる人は限られている。市がどれだけ良いものを公表しても、来ようと思っている人がわずかで、時間も許される方でとなると、いつも同じ方が深く関わるという構造になるかと思う。そうじゃない人に向けてとなると、やはり義務教育、学校教育のところになるわけで、今は不登校などもあるが、若い方に意識を早めに身に付けもらうということを進めてほしいと思う。大人になったら自分で自己決定するので、色々な良いものがあっても来てくれない。それを来させるとなると、もう一つの要因が必要になって、それが強制的なのか自発的なのかっていうのがあり、自発的なことの方が難しいと思う。何か「ついで」というより「何かしてもらえる」という感じのシステムがあればと思う。例えば「転入の時には必ずアナウンスする」といったような仕組みがないと、自由に来てくださいと言って意識を変えようとしても、なかなか厳しいのではないか。半強制的な方法で啓発していくのはいかがか。

○世代間交流というか、若い世代と私たちより上の世代が交流できる場、そういうイベントの企画があると、参加者だけでもその交流の時間や意見交換を自由にできるような企画を入れてもらっていると違うと思う。新しい教育を受けている若い世代は、私たちの学生時代とは全然違っている。男女間のとらえ方や

LGBTQの件もそうである。全然違う感覚があるので、異世代の親子の家庭でも議論があるのだと思うが、もっと知らないおじいちゃんおばあちゃんと知らない中学生、小学生が友達のような感覚で合わせて、いろんなことをテーマにして意見交換ができると大分変わるのでは。そういうところから市民の意識というのは変わっていくと思う。何かのときに思い出して「奥さんにはこういうふうに声掛けしよう」といったことを思ってくれれば、何か少しずつ家庭の中での変化が見えてくると思う。市から情報を与えてくれるのはありがたいけど、それを市民の中でシャフルじゃないけど浸透できる機会がセットで必要。

○行政がとても多くの事業を組んでいるが、男女共同参画推進プランに沿った中で、それぞれぞれの担当課ができることはどういうことかを考えて自主的にしているということか。

●こちらから意見は言っている。せっかく事業をやっているのだったら、もう少し男女共同参画の立場から、何かプラスアルファのことをしてほしいというようなことをヒアリングの中で言っており、基本的にはその方向でやっていると思っている。何しろその事業自体にはそもそもの目的があって、それに、例えば我々でいうと男女共同参画だが、それにプラスアルファで、例えば人権の話があったり、人権でも障害者のことがあったり、高齢者のことがあったりと、色々な要素が出てくる。そこにさらに「住んでみたいまち宗像」ということで定住促進の要素も入れてとか、多方面から色々なリクエストが来るので、必然的に全体としては薄まる感じになってしまうということもあるのではないかと思う。

○紙面上の計画ではなく実現していくようにしてほしい。今までは、どのようになっていて、どうしていきたいのかがあまり見えてなかった。「具体的にどういうふうにしていきたい」ということがタイアップできるような事業になっていったら良いと思うし、実現できると思う。

●あらゆる事業を対象に「男女共同参画」という視点で、こちらから要望なり意見なりは言っている状況ではある。しかし、もしかすると全事業ということではなく、どれがより効き目があるというところに絞って、そこにもう少し男女共同参画の要素を強く出してもらうといった、選択と集中をしていくことも一つ必要で、その経過をきちんと追っていくということも大事なのかもしれない。

○核が一つあって、それをみんなでやっていこうとやった時に、「今年度はこのことが進んだよね」「それはもう少しできるのではないか」という感じで進んできた感がでて、実感できると思う。毎年同じものが書いてあるから、何年かかってどこまで進んでいっているのだろうかという思いがある。例えば、地域の役職員の女性参画にしてもなかなか進まない。しかし、それは女性だけに限らず、若い男女の人たちが役職につくことも同じで、どんどんお願いしていくというか、本当に具体的なことも取り入れながらしていくと良い。ベクトルを合わせていくというのがやはり効果的かと思う。

●メインの政策に乗っかっていくというのは、一つ強弱をつけるという意味ではありなのかなと思う。

○宗像は大学が多く若い女性もいるので、考え方等の交流ができそうな感じはする。

●学生がやはりコミュニティや市民活動団体でも色々と手伝ってくれているので、そんなに遅れてはないのかなという気がする反面、啓発も常に必要なのかとも思う。そういった資源というか人材がいるわけだから、そこをどううまく組合せていくかというのをもう少し考えないといけない。

○学生は卒業したら動いてしまう場合もあるので、在学中に声を聴かせてもらって活用するというのは有効かもしれない。他の地域に彼女たちが行っても、20 代の前半で感じた声というのは、私達の中に残る。

○先ほどの話の中で、既存の事業の中に男女共同参画の視点も入れていくということで計画が成り立っていたのだなというのはよく分かった。そこの発想を変えて、「ここに特化しましょう」ということでベクトルを合わせていくと、男女共同参画の意識が特化された事業となって、目標達成できるのではないかと感じた。全課を通して行うメリットもあるので、そこを「第4次では、これでいきますよ」といったことを掲げていく。あまりたくさん書かなくてもいいのかなと思う。

○1 回目の会議の時に「こういう評価をしてください」と言われた時は「何？」という感じで、何も出せなかったが、今お話を聞いて「なるほどそういうことか」と思った。一市民としてはこれを持てもよくわからないと思う。

○事務局評価というのはしないといけないのか。

●その辺は次期プランのときに検討していきたい。

○市民の評価というのは入ってないのか。

●この場が、市民の代表ということで評価をしてもらっていることになる。

●生の声をひろうということであれば、コミュニティというのもあるかもしれない。

4　事務連絡

●次回会議については令和7年度に入って改めて調整させていただく。
●久保委員退任のご報告

議事録署名人　宗像市男女共同参画推進懇話会　委員

小森雅子